

友人の報告を論評する

1. 自己表現の高等テクニック

セミナー出席者は友人の報告をただ漫然と聴いているようではいけない。それは報告者に対して失礼なだけではない、創造的な自己表現の機会をみすみす逃しているようなものです。コメントをしたり、解らない点を質問することによって、「わたしはあなたの報告にとっても興味があります」ということを間接的に表現するのは、自己表現の高等テクニックのひとつである。

2. 建設的批判をこころがける

友人の報告についてコメントする際には、つねに「建設的な批判」を心がけるように。心にもないお世辞を言ったり、おべっかを使ったところで、なんの役にも立たない。下手をすると友人としての信頼を損なうことにもなりかねない。

同じセミナーに属する友人として、知識の創造という同じ目標に向かって一緒に歩んでいるということをしっかりとわきまえて発言するならば、たとえ辛口のコメントであったとしても、報告者が気分を悪くするようなことはないだろう。このセミナーを通じて生涯つきあえる友達をみつけてほしい。

3. 建設的批判の具体例

建設的批判とは具体的にどのようなことをいうのだろうか。こんな例を考えてみよう。「〇〇の点を改善すれば、この度の報告はもっとよくなるだろう」という具合に、具体的な改善点を指摘して、さらなる向上を希望する、このような態度で書かれたコメントを受け取ったなら、あなたはとても幸せな気持ちにならないだろうか。こんなコメントが建設的批判である。つまり、報告者にとって自己向上の糧となるようなコメントがそれである。

コメントすべきことは、大きく分ければ、二つある。ひとつは報告の内容について。いまひとつは報告の形式について。内容については、報告者の論旨に即したコメントが求められる。分からなかったこと、もっと聴きたいことを尋ねるのもよいだろう。形式面では、話し方や話しのスピード、説明のわかりやすさや質問に対する対応などが考慮すべき項目になると思う。

それから最後になったが、励ましの言葉を忘れないように。これまで自分の知らなかったことについて話が聞けたとしたら、感謝の言葉を付け加えるのもよい。節度のある励ましは、美しい行為だと思う。